

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 9 月 26 日現在

機関番号：32610

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24610008

研究課題名(和文)介護職における倫理教育の現状と倫理的問題の認識および対処との関連要因

研究課題名(英文)Current Ethics Education in Care Worker and The Main Correlates with Recognize and Coping the Bioethics Problems

研究代表者

角田 ますみ (SUMITA, MASUMI)

杏林大学・保健学部・准教授

研究者番号：40381412

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,700,000円

研究成果の概要(和文)：第一段階として介護福祉士養成課程のある大学シラバスとカリキュラムから倫理関連科目の主要項目の抽出を試み、特徴を分析し、現場における具体的な倫理問題への対処までは習得することが難しい現状が明らかになった。しかし、多くの大学で、介護系専門科目と倫理関連科目との二本立てにより基礎と応用そして実践としての教育的相乗効果が期待された。第二段階では全国の介護施設に勤める介護福祉士に質問紙調査を行い、現場で遭遇する倫理的問題の場面がどのようなものか、またそれに応じた倫理科目や倫理研修の内容には具体的な事例や対応策が求められることが明らかになった。

研究成果の概要(英文)：I analyze ethics subjects in syllabuses and curriculums of universities with care worker training courses in Japan. As a result, it was found that almost all targeted universities put in place ethics subjects. However, ethics education has generally been introduced as elective subjects, which students do not necessarily take, and often as subjects for freshmen and sophomores. Furthermore, specific contents of lectures are mainly centered on fundamental knowledge, and such lectures fall short of having students learn how to deal with concrete ethical problems in a real situation. Nevertheless, universities are increasingly introducing ethical contents in curricula for their training courses as part of the specialized subjects for developing a sense of professionalism and deepening sympathy for care recipients. The combination with ethics-related subjects is expected to generate a synergistic effect, prioritizing both fundamental knowledge and advanced practical exercises.

研究分野：生命倫理、高齢者ケア

キーワード：生命倫理 介護倫理 高齢者ケア 福祉倫理 倫理教育

## 1. 研究開始当初の背景

我が国の著しい高齢化に伴い、高齢者が生活する場合は自宅や医療現場から、介護現場へと変化してきた。人生の終盤期という大事な時期をケアする介護職は、高い職業倫理を持つことが求められる。しかし、実際の介護現場では、これまでに介護職員やサービス提供者による不適切な行為や質の悪いケアの提供、身体的・精神的虐待など様々な倫理的問題を含む事例が生じている。

また、介護老人福祉施設では「重度化対応加算」「看取り加算」の対象となり、ターミナルケアも含むようになってきている。それによって様々な倫理的問題に葛藤する介護職も多い。こうした問題は、過重労働といわれる介護現場で、援助者が倫理観を持って援助関係の中で具体的に介護を実践していくことは容易でないことを示している。個人の良心や倫理観だけを問うのではなく、専門職業人としての倫理観の確立が問われるべきであり、そのためには介護職の倫理教育が不可欠である。またこの倫理教育は、養成教育から現任教育と一貫した流れのなかで行っていくことが重要であり、そのためには教育内容や方法を確立することが必要と考える。そのための土台として、本研究では介護職に対する倫理教育の現状と、倫理的問題に対する認識および対処との関連要因を検討した。

## 2. 研究の目的

**第1段階：**介護福祉士の倫理教育機会、倫理の知識や倫理教育の必要性の認識について明らかにする。

**第2段階：**介護施設の業務において遭遇する倫理的問題に対する認識と対処の特徴を明らかにする。

## 3. 研究の方法

**第1段階：**全国の介護福祉系大学 60 校(2014年6月時点)の各大学ホームページにてWEB公開されているカリキュラムおよび「生命倫理」「倫理」等を含む科目のシラバス(2014年度版)を対象とした。そのうち、56校はWEB公開しており、非公開もしくは学内のみ公開が4校であった。よって最終的な分析対象を56校とした。

シラバスからは、「科目名称」「科目内容」「開講学年」「単位数」「必修/選択」「教養/専門」「講義方法」「科目担当者の特徴」を抽出し、科目の全体像について分析した。さらにシラバスに記載されている内容を抽出し、その傾向を分析した。

**第2段階：**全国老人保健施設協会に登録されている介護施設に勤務する介護福祉士 1000名に介護福祉士の倫理教育機会や倫理的知識や必要性の認識、業務で生じる倫理的問題に対する認識と対処行動などから構成される自記式無記名質問紙の作成し、郵送調査を行った。次に SPSSver11 を用いて集計を行い、自由記載事項については、意味内容が類似する記述を取り出して内容分析を行った。

(回収率 49.3%)

**倫理的配慮：**第一段階では公表されているデータを利用したため、倫理的配慮として記載すべき事項は特になし。第二段階では、個人情報保護とデータ管理の徹底化、同意および同意取り消し、または研究参加拒否における被験者の自由意思尊重について研究計画説明書記載し、質問紙の返送を持って同意とみなした。なお、本研究は所属機関の研究倫理審査会に研究計画書を提出し承認を受けている(承認番号：27-22)。

## 4. 研究成果

### 第1段階

#### (1) 生命倫理関連科目の設置状況

調査対象校のうち、倫理関連科目を設置している大学は 100%であった。また、科目名称のカテゴリー(とその割合)は次の四つに分類された。「生命倫理」もしくは科目名称に「倫理」を含む科目(以下、「生命倫理系科目」とする)39%、「哲学・思想系科目」6%、科目名称が「や」ではないが、「人間への理解」や「人間の自立と尊厳」等の名称で幅広い内容に倫理を含む科目(以下、「その他」とする)8%、介護系専門科目の中に倫理の内容を数コマ入れている科目(以下、「介護系専門科目」)47%である。(図1)。さらに設置内容を分析したところ、対象校によって様々な組み合わせがあることが判明した(図2、図3)。これらにより、生命倫理関連の科目は複数の組み合わせで設置されていることが多く、倫理的内容を含む「介護系専門科目」との組み合わせが最も多いことがわかった。

なお、「介護系専門科目」とは、前述の新カリキュラムにおいて、領域「介護」部分に該当する、介護学概論、介護方法論、介護学各論、介護技術演習、介護臨地実習など実際の援助内容を学ぶ「介護」に基づいて設定されている専門科目、と定義して記述する。

#### (2) 生命倫理系科目の全体像

次に「生命倫理系科目」に焦点をあて、その全体像を検討した。(1)で示したように、「生命倫理系科目」を開講している大学は39%で該当科目数は66科目であった。

「必修/選択」「教養/専門」「配当学年」「単位」

該当科目における「必修/選択」状況は、圧倒的に選択科目設置が多く、「教養/専門」ではほとんどが教養科目として位置づけられていた。配当学年は1年次が圧倒的に多く、低学年に設置する傾向にあった。単位は2単位が最も多かった。

「学習目標/目的」「授業方法」「内容」「科目責任者」

学習目標/目的として最も多く挙げられたものが、「倫理的感受性を高める」「倫理の基礎知識の習得」「倫理的態度を養う」の3つであり、続いて「倫理原則とその重要性の理解」「倫理規定(倫理綱領、倫理に関する法規)」で、「倫理的ジレンマの理解」「倫

理的判断力を養う」、「倫理的問題の解決プロセスの習得」は少なかった（図4）。

授業方法としては、圧倒的に講義形式が多く（図5）、具体的な内容としては脳死や臓器移植、尊厳死など生命倫理のトピックを中心にしたもの、哲学や倫理学の概念を中心にしたもの、宗教的視点から倫理の概念を扱うもの、医療や介護現場に多く見られるトピックを中心にしたものなどであった。その中で最も多かったものが、生命倫理のトピックを中心にした内容であり、次いで哲学や倫理学の概念を中心とした内容、生命倫理のトピックと具体的な事例検討をミックスした内容が続いた。（図6）。講義内容から見ると全般的に生命倫理の基本的な知識の教授が中心であったが、講義形式の中にグループワークやディスカッションなどを入れて生命倫理のトピックについて話し合う機会を設けている科目も複数あった。

また、科目責任者の属性では常勤が多く、責任者の専門分野として、文学、哲学、神学、社会学、精神医学などが専門で、倫理や介護を専門と明記している者少なかった。

「介護系専門科目」で扱われる倫理関連の内容

「介護系専門科目」でも倫理関連の内容を含んで教えており、その内容を見るため、シラバスと同時に、シラバスに記載されていた頻出の指定教科書の内容も収集した。介護学概論など介護学の基礎的科目のなかに含まれることが多く、「対人援助職としての態度の形成」など介護職としての態度や、「若いへの理解」、「身体機能低下に伴う諸問題と理解」、「判断能力が低下している人への意思決定支援」など、心身機能の低下により他者の援助を必要とする人々への理解を深めるなかに倫理的内容が含まれていた。

上記の結果から、対象校のほぼすべてに「生命倫理」、「介護倫理」、「倫理」など科目名に倫理を含む倫理関連科目が配置されていたが、選択科目が大半であり必ずしも学生が履修するとは限らないこと、低学年配置であることや講義内容が基礎的知識の教授にとどまっていることなどから、現場における具体的な倫理問題への対処までは習得することが難しい現状が明らかになった。さらに1) 倫理関連科目の重複設置による倫理教育の機会、2) 実践を視野に入れた「生命倫理系科目」内容の再構築、3) 「介護系専門科目」における倫理教育の充実と科目間による「相互補完的役割」、4) 介護に焦点化した倫理教育の構築が、今後の介護福祉士養成課程における倫理教育に重要であることが見出された。

図1・名称科目カテゴリ

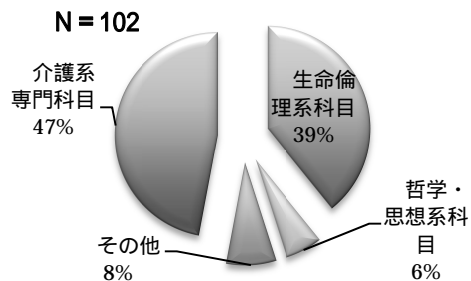


図2・科目設置内容

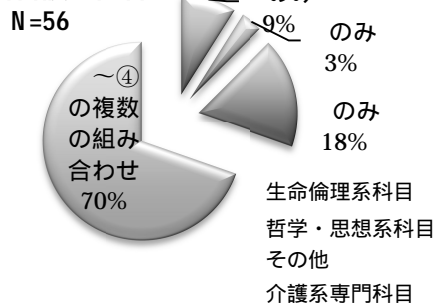


図3・複数組み合わせの内訳

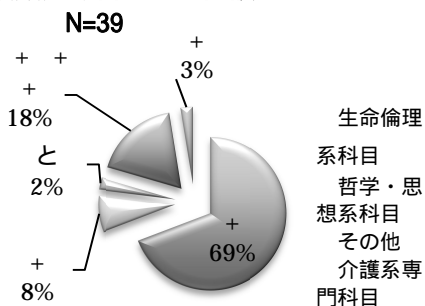


図4・学習目標/目的 N=248(延数)

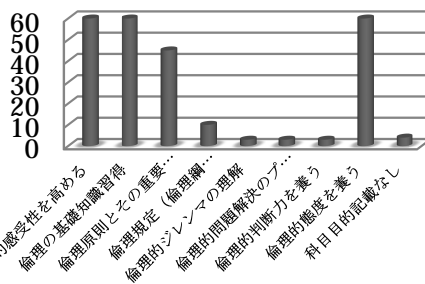
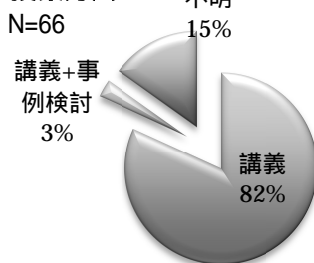
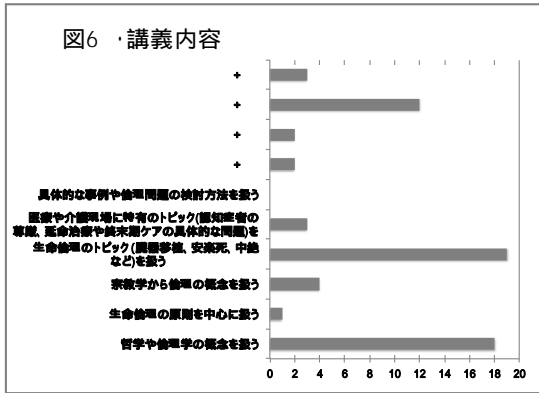


図5・授業方法





## 第2段階：

### (1)回答者の属性

性別は女性が61%と大半を占め、年齢は30代が44%と多く、経験年数は10年以上が最も多く、続いて5-7年目が多かった。介護職に関する学歴は、実務経験3年以上 国家試験ルートが大半で、続いて専門学校が多かった。

### (2)養成課程における倫理科目の現状

養成課程での倫理科目設置は「有」が62%と多かったが、「無」は30%であった。倫理科目が、「役立つ内容だった」のは65%で、「役立たなかった」は25%であった(図1)。「役立つ内容だった理由」として、「現場に役立つ」、「倫理的問題の判断や解決に役立つ」、「知識や教養になる」、「倫理や職業的倫理観を意識できる」、「職業上での使命感やプライドの支えになる」、「日々の援助や行動の根拠や基準となる」、「援助行為を振り返ることができる」、「ケアの質向上となる」、「対象者への理解につながる」、「その人らしさを支える」などが挙げられた。また「役立たなかった理由」として、現場に応じた内容でないことや基礎的知識の伝授のみで問題をどう考えるか、どう解決していくのかの具体性に乏しいなどで「現場に役立たない」、業務の多忙さや普段意識して考えることがない、現場でもあまり言われないなどから「倫理を重要視しない」、経験年数が長くても倫理教育を受けてこなかった者がいるなどから倫理を重要視する人とそうでない人がいて倫理を実践しにくい「スタッフ間の認識の違い」などが挙げられた。

### (3)現場で体験した倫理的問題と取り組み

現場で体験した倫理問題として、プライバシーへの配慮がなされていない、対象者の生活が施設や職員の都合に影響される、対象者の立場にたっていない、対象者への態度が悪い(呼び捨てや子供扱いするなど) 業務に追われてケアしきれていない、認知症者に対する態度やケア方法がよくない(叱る、きつい口調で対応する、否定するなど) スピーチロック、本人の意思を尊重していない、個人情報をもんががいるところで話す、個別性が尊重されていない、対象者を待たせる、不適切な身体拘束が行われている、尊厳や権利を守っていない、

ケアせずに放置している、などが挙げられ、倫理的問題が生じやすい生活援助行為としては、「排泄介助」、「入浴介助」、「食事介助」の場面が最も多かった。

倫理的問題への取り組みについては、「取り組めた」が54%、「取り組めなかった」が46%と半々であった。取り組めなかった理由としては、問題とわかっていたが、「どうしていいかわからなくて取り組めなかった」、「問題と思い周囲と相談したが、規制やシステムでどうにもできなかった」が多かった。問題を感じた時に相談する相手としては、主任やリーダー、看護長などの上司が最も多く、次に同僚が続き、この二つが他よりも群を抜いて多かった(図2)。またこれらの記述には「信頼がおける」、「介護に対する考え方が似ている」、「尊敬できる」、「意識が高い」、「経験・知識がある」、「常識・モラルがある」、「助け合える」などの形容詞がつけられていることが多かった。

### (4)職場での倫理研修について

職場での倫理研修は、「研修があった」のは60%で、内容としては「職場の職員が職場で講義や講演を行う」ことが多かった(図3)。倫理研修が役に立ったか役立たなかったかについては、61%が「役に立った」と回答していた(図4)。役に立つ理由として、「倫理や倫理的問題について意識するようになる」、「日々の具体的なケアの振り返りや対応」、「具体的内容だったから現場に活かせる」、「勉強や情報収集」、「全スタッフが倫理を意識し価値観の共有が図れる」、「介護士としての倫理観」、「認知症への理解や対応」、「問題の考え方や解決方法、判断の根拠となる」、「尊厳や意思決定、利用者本位の重要性を学ぶ」、「利用者に対する態度や相手の立場になって考える」、「人として大切なものを学べる」、「問題のある職員に意識させる」などが挙げられた。役立たなかった理由としては、講義内容が現場の問題を具体的に反映していない「現場と講義内容のズレ」、大切なことはわかっているがなかなか実践できない「現実と理想のギャップ」、難しい、答えや基準がわからないなどの「倫理自体が難しい」、施設内での研修で内容のレベルが低かったなど「研修の環境や条件がよくない」、職場の環境や条件によって改善できないなどの「職場の環境や条件が悪い」、家庭ですですにつけておくべきものという「職場以前の問題」などが挙げられた。

上記の結果から、養成課程における倫理科目や職場における倫理研修の有無はどちらも60%の割合で「有り」であった。その反面「無し」が30-40%であるため、倫理教育の機会がない介護福祉士もいる可能性がある。現場で体験した倫理的問題については、介護三大場面と言われる「排泄」「入浴」「食事」で倫理的問題が生じやすく、内容としては、プライバシーへの配慮、尊厳や利用者本位、意思決定などの基本的人権の遵守、対象者へ

の態度、良いケアが十分に提供されていないなどの問題が挙げられ、特に認知症者への対応について問題を感じていることが多かった。これらの問題について半数では取り組めたと回答していることから、倫理的意識をもって自分たちの業務を見ている姿勢がうかがわれたが、反面取り組めなかったのが約半数いることから、倫理的問題が生じていてもうまく対応できていない現状が明らかになった。

倫理科目、倫理研修ともに、役立つ理由として「現場で役立つ」、「問題の判断や解決に役立つ」、「倫理を意識できる」、「日々の援助や行動の基準となる」、「援助行為を振り返ることができる」などが挙げられ、「現場に実際に役立つ内容」が重要であった。また役立つ理由では、講義内容が現場の問題を具体的に反映していないという「教授する側の問題」、倫理を重要視していない、もしくは学習者側のレディネスが整っていない「学習者側の問題や考え方」、大切なことはわかっているがなかなか実践できないという「職場環境や条件の問題」がうかがえた。以上により、できる限り現場に応じた具体的な内容や事例を含む講義内容が望まれ、身近なところで倫理をまず意識してもらうことの重要性和、現場で実践に結びつくような具体的な対応策の必要性が示唆された。

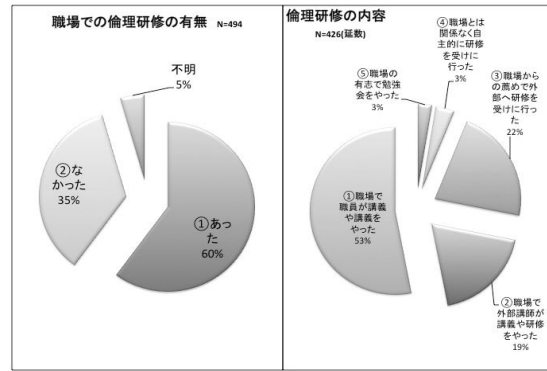


図3・職場での倫理研修の有無とその内容

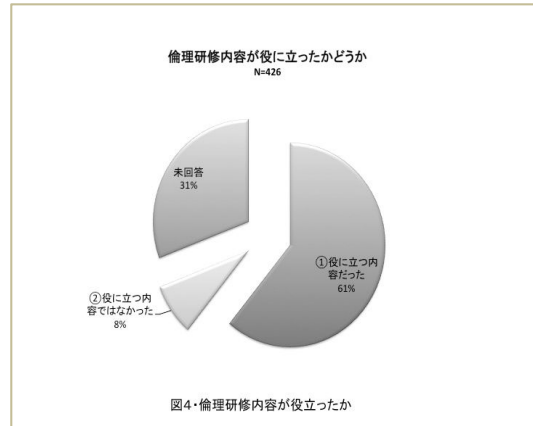


図4・倫理研修内容が役に立ったか

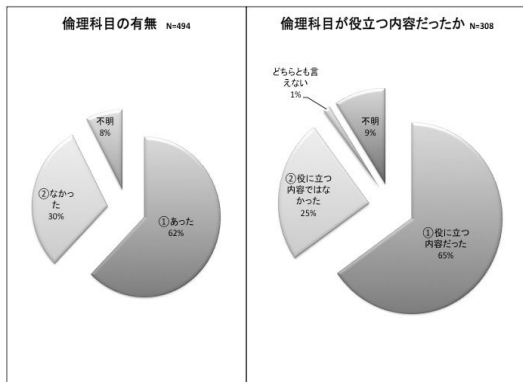


図1・倫理科目の有無と役立つ内容だったか

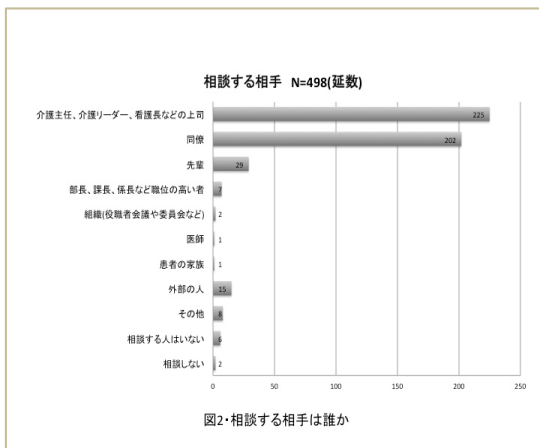


図2・相談する相手は誰か

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計1件)

(1)角田ますみ: シラバスからみる大学における介護福祉士養成課程の倫理教育、生命倫理26(1)、ページ未定、2016、査読あり

〔学会発表〕(計2件)

(1)角田ますみ: 介護系福祉大学における介護倫理に関する教育内容の分析-シラバスの記述内容分析を通して- . 日本生命倫理学会、浜松、2014.10.25

(2)角田ますみ: シラバスからみた大学における介護福祉士養成課程の介護倫理教育の現状 . 日本生命倫理学会、東京、2013.12.1

## 6. 研究組織

(1)研究代表者

角田ますみ (SUMITA, Masumi)

杏林大学保健学部・准教授

研究者番号: 40381412